

の状況は図 51、図 52 に示したように、4 月上旬、発生したばかりの雑草を除草剤で除草することで、5 月中旬まで除草する必要がある状況に法面を維持できた。一方、高刈りでは、草丈 5cm 未満の雑草が残存し、それらが成長するため、除草剤よりも雑草を効果的に抑制することが困難であった。よって、2,4-D アミン塩が使用できれば、施工 2 年目の春先の雑草管理が高刈りよりも効果的かつ省力化できる。2 年目以降の除草剤併用効果を活用することで、前述した 2 年目以降の維持コストをさらに軽減できると期待される。

また、除草剤はクローバー（シロツメクサ）の繁茂を抑制することも期待できる。この点が除草剤使用のもう一つの利点であり、高刈りでのみではシロツメクサの繁茂抑制が難しく、一旦勢いがつくと旺盛に繁茂し、ムカデ芝が駆逐される危険性が高まる（図 52）。IM 工法の施工安定性を高めるために、施工 2 年目以降の雑草管理について、さらに継続して調査をおこなうことが必要である。



図 50. 高刈りと除草剤による施工 2 年目の春雑草抑制効果の比較

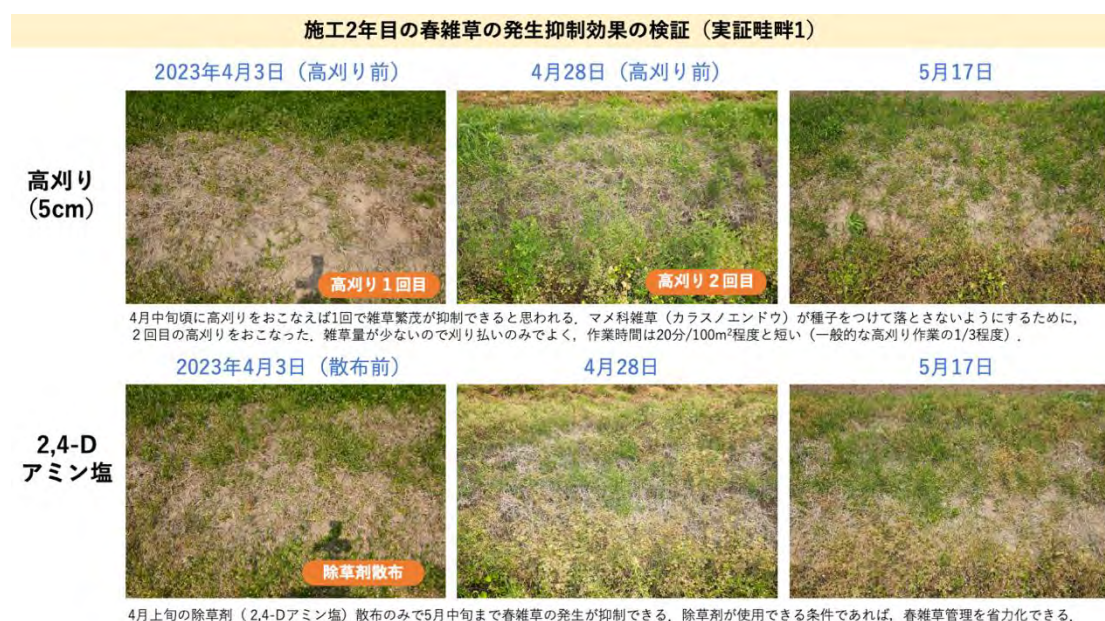


図 51. 高刈りと除草剤による施工 2 年目の春雑草抑制効果（実証畦畔 1）

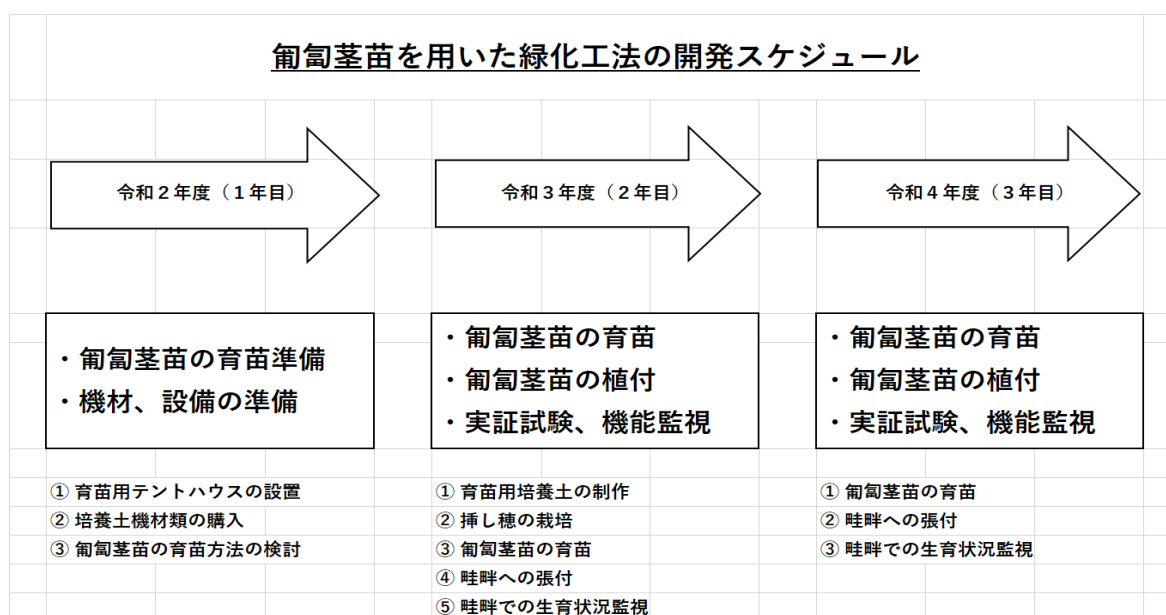


図 51. 高刈りと除草剤による施工 2 年目の春雑草抑制効果(実証畦畔 2)

（2）ムカデ芝匍匐茎苗を用いた低コストで省力的な畦畔緑化工法の開発

ムカデ芝は、旺盛な匍匐伸長能を有しており、生育適期では日伸長量は 3.4 cm/日に達する。また、節根を有する匍匐茎は旺盛な再生能力があり、これらの特異的な生育特性を活用することで、匍匐茎から効率的に高い生育能を持った苗を短期間で育成できると考えた。

本事業では、この匍匐茎苗を短期間で効率的に成苗する方法を開発し、畦畔に植付してこの苗の持つ旺盛な伸長機能を生かして、畦畔法面定植後の被覆を促し、雑草の抑制効果を図ることにより畦畔雑草管理作業を軽減させる。



1) 令和2年度 実施項目写真

① 育苗用テントハウスの設置



テントハウス L=10.0m



テントハウス W=5.0m

②培養土用機材の購入



育苗箱12枚(1セット)



ムカデ 芝ランナー 押木



遮光用寒冷紗



葡萄茎苗運搬用ラック

2) 令和3年度 実施項目写真

① ムカデ芝ランナーの採取



ムカデ芝ランナー採取状況(令和3年6月28日)



ムカデ芝ランナー

② ムカデ芝の育苗



ランナー植付状況(令和3年6月29日)



ランナー植付 1箱(7本植)



ランナー押木



遮光用 寒冷紗設置状況